

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1271400135		
法人名	医療法人社団東方便		
事業所名	グループホーム あんじん		
所在地	〒287-0003 千葉県香取市佐原イ1681		
自己評価作成日	平成25年11月14日	評価結果市町村受理日	

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛 愛されていない命は一つもない。尊重 尊ばれない命は一つもない。この理念を運営やケアサービスを提供する上での拠り所としています。</li> <li>・買い物、散歩、外出(佐原大祭、子供会への参加等)を通じて地域の中での暮らしを支援していきます。</li> <li>・医療連携の充実を図り、利用者のニーズに応えた生活支援を提供していきます。</li> </ul>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県柏市光ヶ丘団地3-2-104		
訪問調査日	平成25年12月6日		

<p>当事業所の最高齢の利用者は102歳である。認知症は重いが自分にも他人にも厳しく明治生まれの人の尊厳を放っている。職員は「愛」と「尊重」の理念をもって利用者に接し、利用者からは「愛」や「尊厳」の大切さを学び、事業所の理念を深めつつ支援をしている。</p> <p>当事業所は近隣の利用者が多く、事業所から100m程の場所で暮らしていた人もいる。佐原の大祭では自分の町内の山車を楽しみにしている。家族、友人、知人の来訪が多く、買物や散歩は知人や商店主が声をかけてくれる。また、近くの保育園との交流があり、園児から利用者へのプレゼントに加え、クリスマス会への招待もある。利用者はクリスマスに備え手作りのプレゼントを用意し、訪問準備を進めている。これらに見られるように事業所は地域との付き合いや馴染みの継続を大切にしている。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「愛」愛されていない命は一つもない「尊重」 尊ばれない命は一つもない。日々の生活支援の原点になっている。利用者や家族から命の大切さをとおし、愛する心や尊敬を持つて生きることを教えられています。	当事業所の最高齢の利用者は102歳である。認知症は重いが自分にも他人にも厳しく明治生まれの人の尊敬を放っている。職員は利用者から「愛」や「尊敬」の大切さを学び、事業所の理念を深めつつ支援をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物、散歩、町内の子供会、佐原の大祭見物、など積極的に行っている。個別に自宅の近隣宅へ散歩がてらに会いに行く。又、会いに来てくれることがあった。	利用者は近隣の人が多く、近くの保育園との交流があり、園児から利用者へのプレゼントがある。またクリスマス会への招待もある。利用者はクリスマスに備え手作りのプレゼントを用意する等、訪問準備を進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の総会で、認知症よろず相談所としての看板の話や認知症サポーターリング等をお伝えしています。地域貢献までは至っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では当ホームの現況、スタッフの勤務状況、研修報告し、事故報告・苦情報告から、より良い運営方針や改善点を話し合っている。家族と一緒に利用者の方にも参加してもらい意見を頂きました。	年に2回、運営推進会議を開催し、1回目は看取りをテーマとし、2回目はリビングの使い方等について参加者の意見を訊いている。リビングの使い方については家族の考え方を採り入れ、運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	年2回運営推進会議を開き、香取市地域密着サービス連絡会開催・参加等、協力関係を築くようにしている。	運営推進会議や定期的開催する香取市地域密着サービス連絡会で、市の福祉保健課の担当者やサービス提供や運営に関して意見交換を行い、また、このような機会を利用し、市との協働関係の構築を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修会などに参加し、ミーティングの際にチェックシートを利用して勉強会を行いケアにつなげている。	職員は研修会への参加や所内の教育で身体拘束をしないケアを理解し、玄関を開け、見守りや近隣の協力で自由な暮らしの支援と安全確保を両立させている。身体が痙攣し車いすから落下の危険のある利用者のみ医師の指示で移動時に限りバンドで固定している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止徹底のため、職員の勉強会、ミーティング、研修会参加等で防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングなどの場で職員が成年後見制度について熟知するよう努めている。現在利用者の中に一人この制度を利用している方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者や家族にも十分な説明を行い、改定時は、文章をつけて個々に説明をし、不安や疑問点をたずね、理解と了承を得ています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や運営推進会議で利用者や家族からの意見を伺い、運営に反映させている。リビングの過ごし方の工夫をとる要望があり、スタッフが寄り添う時間を増やして、ゴミ箱作り・パズル・新聞切り・折り紙・体操等の参加や文字や数字を書いてもらう工夫を取り入	家族の要望で、従来と異なるリビングでの過ごし方を採用した。脳への刺激を意図して、ゴミ箱作り、テレビ体操、文字・数字の書きとり、計算等を行っている。また出来たゴミ箱は園児へのプレゼントに用いる予定がある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの際、職員の意見や提案を聞く機会設け反映させている。利用者の声やおもいを具体的に計画できるように、担当を決めながらすすめている。	月に1回定例のミーティングを開催では、センター方式を用いて、利用者が欲している支援を職員の声を通して引出している。その他個別の課題ごとに緊急ミーティングを開催し、アイデアや工夫を聞き運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	ミーティングなど職員が個々に意見をのべる場を設け、前向きに仕事ができ、ホームの雰囲気を感じながら明るく仕事を楽しくめるよう考慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	積極的に外部研修し、管理者や職員を経験に応じ育成するための計画を立て、勉強会(ミーティング)を月1回実施し職員の質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会等で同業者と交流する機会をもち、勉強会や他の施設などの見学会等を実施し、質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に面接に伺い、緊張と不安を和らげるようスタッフより意識的に言葉かけや会話する場面を作る。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望、不安なことに耳を傾け、より良い関係づくりに努める。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接や担当者会議等で状況を見極め、必要としている支援を検討。即対応できるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の能力、希望に応じ、出来ることはやっていただけるような環境作りをしている。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近場に遠足の予定を計画すると家族をお誘いし、都合がつけば一緒に参加して頂く。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族の思いを伺い、馴染みの人や場所などの関係が途切れないよう支援していく。自宅の近くまでお祭りを見に行き、近隣の方に会ってくる等の支援をする。	近隣の利用者が主で、事業所から100m程の場所で暮らしていた人もいた。佐原の大祭では自分の町内の山車を楽しみにしている。家族、友人、知人の来訪が多く、買物や散歩は知人や商店主が声をかけてくれる。	利用者は佐原の街で生活をしていただろうか。今も佐原の街で生活しているという実感を抱いているでしょうか。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが利用者の個性を把握し、孤立することなく生活できるように支援する。お客様間では会話が成り立たない場面がみられるのでスタッフが話題を提供し、興味を持っていただけるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中にも入居者とスタッフがお見舞いに行き、退居後も連絡を取り合い、経過フォローした。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族に以前からの状況を伺い、現在の暮らし方を考慮しながら本人、家族の意向に応えるよう支援している。また、職員の気付きや本人の言葉、表情の中から本人本位の視点で思いを把握している。	最高齢者102歳の利用者との事業所で、『愛』や『尊厳』の大切さを利用者から学びとる謙虚さで支援している。本人の状況とアセス等の情報を尊重し、寄りそう支援に徹している。管理者も近所に住み、即対応の姿勢でいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントを利用し、チームからの情報を集めて生活歴、馴染みの暮らし方を把握する。家族に伺ったり、本人の生活ぶりをスタッフ間で予測しながら把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の日誌の記録を中心に個々の状態を引き継ぎながらミーティングでスタッフの共通理解を図っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式を利用し、チームより情報を集め、ミーティングにて家族の意向を踏まえながら課題とケアのアイデアと工夫を話し合う。本人と家族に介護計画説明と了承を得る。モニタリングも同様。	利用者及び家族との日常のかかわりの中で思いや意見を介護計画に反映させている。事業所のご近所の方が多いので地域的な課題なども把握し、反映に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌に個別記録を記入し、当日のスタッフが必要なことを申し送って、スタッフ全員が目を通し確認し、情報を共有。また、意見を出し合い、ミーティングでの気づき、アイデアの工夫をセンター方式を活用し介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	同法人での別のグループホームへの訪問やデイサービスでのレクリエーション等へ参加している。個別のニーズに対応し、馴染みの町内の山車を見に出かけ、皆に歓迎されたこともあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員に協力依頼をしている。緊急の対応として警察、消防署に協力できるようにしている。希望者は文化に触れられるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医が系列医院の医師のために、本人家族ともに納得している。また、適切な医療を受けられるように他医療機関と連携をとっている。	主治医が法人理事であり家族もそのことを入居時の選択の参考としているなど、健康管理と他の医療機関との連携の実情が共有されており、適切な受診への万全を期している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の一人が看護師として従事しているために、日常の健康管理や医療連携の支援も充実している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時情報提供書を持参し、病院関係者と情報交換をし、退院に向けて合同会議をすることがあった。又、研修にて関係づくりをおこなった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携を図りながら本人や家族の意向を伺い、終末期に関しては家族と共に本人の心に寄り添えるようにしている。	利用者が適切な医療サービスを受けられる体制をとりながら、利用者と家族に寄り添える支援を行っている。特に緊急事態は時間を問わないなど不測の事態に備えてチーム・職員間の連携を密に体制をとっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、職員全体が熟知するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時の対応として、警察、消防署に即時に協力依頼できるようにしている。夜間を想定した自主消防訓練を行い、避難方法等確認をした。又、緊急用の連絡網を作成した。	3.11以降、緊急避難方法の確認と共有、緊急連絡網作成などを行ったが、非常事態発生時に即応できるよう、間歇的な訓練と情報の共有を継続させてゆく。また事業所の近距離居住の職員の動員体制も企画する。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の書類等については所定の場所に保管し、個人情報の保護を図っている。日常的にも入居者のプライバシーに配慮し、申し送り方法や声かけに気を配り、相互の信頼関係を大切にしている。	記録などファイル類は施錠できるストッカーに保管している。事務室が共有空間に近いので、文書類の保管には注意を払っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別に説明して希望を伺うようにしています。なるべく具体的に分かりやすく話をして、本人の表情や行動から気持ちを受け止めることもあります。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	今日は何をしたいですか？と聞いて、希望にそったり、具体的な提案をして選んでいただく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者に応じて化粧の支援を行ったり、2か月に一度パーマ屋さんに来てもらいヘアカットをしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と職員が同じテーブルを囲み、明るく楽しい雰囲気づくりに努めている。	ダイニングはいつも笑い声など、歓談の気分が溢れている。明るく楽しげで安全なダイニングは、体温のような温かみがある。かつての主婦が『らしさ』を発揮する場所としても賑やかで楽しげな雰囲気である。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の状態、好みなどを考慮し、一人ひとりに応じた支援をしている。水分については一日の水分量を見ながら足りない分は好みの飲物で摂取して頂く。糖尿病の方にも気を配る。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、就寝時には口腔ケアを行う。入れ歯の方は洗浄剤を使用、うがいで頂く。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレに行きたくなくなったらいつでも行けるよう配慮し、本人の行動パターンを把握し、本人のやり方を重視して自立支援している。	『本人のやり方を重視した自立支援』は、オムツ使用を減らし、利用者の尊厳維持にも貢献している。便秘予防に対応しながら、利用者の活力とリズム維持にも貢献している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便状況を表にて記録し把握しながら本人に意識づけたり水分野菜を多く摂取していただく。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	脱衣場は暖かくしてあり、入浴は毎日実施している。本人の希望に応じて回数、時間帯等を柔軟に対応している。本人のタイミングを見て声かけ指導している。	利用者の希望、体調など、細かく注意を払いながら、支援を行っている。入れば気分が良くなる事を話題としながら、タイミング等を見て柔軟に支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意思による行動や言葉、様子より横になったり、ソファにてくつろいでいただく。夜間は排泄後安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医の薬の説明書を確認し内容を把握しておき、特に薬が変わったときは効果、副作用について注意してみて症状を主治医に報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の能力、希望に応じて家事等の生活活動を共同で行っている。デイサービスのレクにも参加し、外部との交流も図る。季節の行事、誕生会、旅行を企画実施している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に応じて散歩、買い物を行っている。お花見(桜、藤、あやめ、あじさい、バラ、コスモス、菊の花)、ひな祭りめぐり、五月人形めぐり、市内の行事などにも参加し、時には外食なども楽しんでいる。	立地している町全体が、かつて酒造会社が立ち並んだ歴史ある市街地であるため、外出支援の場所選びには不自由しない。水郷にも近く、馴染の町の優雅な環境での外食支援も喜ばれている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時はバックの中に財布をもち、購入する際に自分で支払う様子があれば確認しながら見守る。事前に家族より預り、本人にお知らせして払ってもらうこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人に職員が本人の意向を聴き、でんわをかけたたり、本人に話してもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季折々の室内装飾や花、外出時の写真を飾ったり、風呂場は温風ヒーターを、リビングにはテレビや心地良い曲を流している。	事務室と繋がっている共用空間は、賑やかな居間と食堂である。楽しそうな声がいっぱい溢れ、利用者がお元氣そうにしておられるリビングである。愛され、尊ばれ、尊厳を維持している方たちの、尊厳と笑い声に満ちた空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が気軽に話をしたり、活動できるように席や言葉かけを工夫する。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具、仏壇のある居室があり、また、家族と相談しながらTVを設置。本人の使い勝手の良いよう配慮、支援している。又、写真を壁に貼ったり、棚の上に飾ったりする。	陽光に恵まれた2階の居室は、モダンである。居間の清掃の支援、衣類の整頓の支援、着衣の色合わせの支援など、孫の世代の職員からのおしゃれの支援は、嬉しい時間のように見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋やトイレの場所がわからない方にはさりげなく場所を教えたり、歩行器や車いすなどがぶつかったりして危険の無いように配慮する。		

### 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】				
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的
1	34	予防対策としてヒヤリハット、事故になりそうなことも報告書として記録、回覧するが、個別にはアセスメントのみとなっている。	転倒防止に取り組む	・ヒヤリハット、事故報告書をし、共通認識をして転倒防止 ・安心感につながる雰囲気
2	27	毎日の日誌への記録がマンネリ化してきている。もっと気づきを記入して自分たちのやりがいにも生かしたい	気づきを記録にして、共有化し毎日の生活に生かしていく	日誌記入時に個人記録にすぐ共有していけるようにすること、改善できること
3	37 38	スタッフ側の見方、考え方で良いと思い、行動助言することが有る。もう少ししていねいに気持ちを受け取りたい。	お客様の目線で意見を伺う。思いを受けとめていく。	生活の中でもう一度きちんと合って同じ目線で意見や思っていく
4				
5				

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。